

自宅住所 同上 TEL 32-2190

家族構成 父 由男 母 ヨシノ 妻 有子 長男 恵一 次男 淳二 長女 尚美

結婚記念日 5月29日

趣味 スキー、ゴルフ

職業分類 鉄骨加工業

スポンサー 中条耕二君 木宮 隆君

ニコニコボックス：

米山忠俊君 国際交流協会の中国研修生昨日16日に41名無事来られました。1年間研修生には有意義な日本たい在期間でありますよう心からお祈り致します。

味方義一君 長谷川恵慈君の入会を歓迎します。仲良くお願い致します。

山上茂夫君 長谷川さんご入会おめでとうございます。また藤田先生の卓話を有難く拝聴させて頂きます。

稲田憲治君 春が来た、去勢したのにこのさわぎその気になるのが玉にキズ。我が家のタマ(オスネコ)の話です。藤田先生、今日は卓話ありがとうございます。

堀川正幸君 藤田先生、山岸分区代理本日はありがとうございます。

佐藤義英君 長谷川さんの入会をかんげいします。

芦田義重君 本間委員がジット見つめたので、たぶん協力せよとの指示だと思うので、

本間建雄美君 本日の卓話楽しみに来ました。又長谷川恵慈君の入会を祝して

小林 満君 長谷川さんの入会を記念して

坂内康男君 長谷川さんの入会を記念して。

笹原勝治君 途中退席をお許し下さい。

石月雅司君 ボックスに協力して、

石川友意君 長谷川恵慈さんの入会を歓迎して、

加藤英男君 ボックスに協力して、

吉田春雄君 今日は息子の入試です。御さい銭のつもりで、ニコニコボックスに入ります。

梨木建夫君 長谷川新会員の入会を歓迎いたします。

卓 話： 「何故今ボランティアか」藤田説量様

ボランティアという言葉が盛んに使われるようになりました。本来はラテン語のボランタール、自由意志という言葉が語源だと聞いております。社会に奉仕する構造というのは、自分の意志ですること。他からの働きかけでなく、自動的な心の高ぶり、そういうものから発する行動をボランティアといいます。

終戦後の日本の福祉の考え方は、国の行政により費用を負担して福祉を考えるといういわゆる与えられた福祉という考え方の基本姿勢がありました。戦前、かつて日本の福祉は地域にお互いの交



流があり、困った人がいれば助けに行く。みなし子がいれば誰かが面倒を見る。親戚がいなければ誰かが引き取って育てる。むしろ徳川時代、明治時代には、日本はみなし子というのはなかったのではないかと考えております。これは日本の国の成り立ちから農耕文化のものの考え方、いわゆる農家という一つの同じスタイルで生活するもの同士の地域における連帯感が吸収していったのだと思います。現に、私が最近考えていることですが、戦争中の疎開の問題もまた終戦後の引揚げ者問題も、おそらく殆んどは農家が吸収したのだと思います。しか

し終戦になりまして、経済の在り方、また地域の居住者の在り方が変わってきて、同じ地域にいろいろ条件の違う人がたくさん居る。そういたしますと、かつて吸収した農耕文化の時代からの物の考え方というもので処理できなくなり、そこで国の行政でいろいろやるのが福祉だということになります。しかし本当の幸せというものは、国からお金をもらってばらまけばいいのかということ、そうではないことに気付きはじめて、今から10年程前、福祉の見直しということばが言われはじめました。家庭の中の老人問題を解決するのに病院に入るより、自分の家で、家族の見守る中で療養することが本人にとって一番幸せではないかと思えます。そこで自宅療養、在宅福祉ということばが出てまいりました。私の母も1年3か月間家で寝たきりでした。家庭の中にいるという安定感、気持の落ち着きが病人のためには大変プラスになるようです。与えられた福祉の時代から、自分で作り上げていく福祉の時代にならなければ本当の福祉ではないという考え方によりやくなってまいりました。そこで自分の家庭だけで物事を解決できない、他から応援をしてもらわなければならないということから、手助け、援助が必要になってきて、ボランティアという考え方が出てまいりました。基本的姿勢を持たないムードボランティアという言葉も生まれました。家庭の中でま、家事をいいかげんにしておいて、しかし、ボランティアという格好のよい活動があるのでそれに参加したい。というものです。今、三条市で登録してあるボランティアが18クラブ位。登録メンバーが1400~1500人。それら全部とはいえませんが、ある程度活動しています。社会福祉協議会で、このボランティアに対して援助予算が35万円位、1クラブ2万円足らずというところですよ。微々たるものです。ボランティアのグループの仕事は誠に涙ぐましい仕事をしておられます。手話サークル。点字を打ち、小説などを目の見えない人に提供する。小説、新聞などを朗読してテープに入れ要望のあるところへご利用頂く朗読奉仕。本当のボランティアというものは人からお金をもらってやるものではなく、自分の意志で自分の力で、自分の生活している地域に対して奉仕をすることがボランティアの三大原則であると考えております。また日本には本来的な意味のボランティアというものが定着していないといわれます。変わり目に来ていることは確かですが、まだ一つ身につかない現状であると思えます。

ある雑誌の中で読んだのですが、80才になるおばあさんは、毎日病院で病人の車イスを押して散